

中学校等における英語教育の改善について 参考資料

目 次

1. 中学校新学習指導要領（平成24年度～）の取組について

2. 中学校英語調査等

- ・平成15年度調査
- ・平成17年度調査
- ・平成22年度調査

3. 生徒・教員の英語力及び指導状況について

中学校新学習指導要領（平成24年度～）の取組について

平成24年度より、中学校に新学習指導要領を導入後、

- 中学校教員：英語の授業で「発話をおおむね英語で行っている」、「発話の半分以上を英語で行っている」と答えた教員を合わせて **1年生 45%、2年生 43%、3年生 41%**
- 中学校生徒：英語授業における生徒の英語による言語活動時間の割合は「おおむね言語活動を行っている」と「半分以上の時間言語活動を行っている」を合わせて **1年生 53%、2年生 47%、3年生 43%**
- 学習到達目標：「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定している学校数の割合は**平成25年度17%**
など、教員が授業を英語で展開し、生徒の英語による言語活動が授業の中心になってきているとともに、各中学校において「CAN-DOリスト」の形で明確な学習到達目標を設定しつつある傾向が見られる。

「平成25年度公立中学校・中等教育学校(前期課程)における英語教育実施状況調査」

<授業改善の事例>

- 秋田県大仙市立大曲中学校
メモに基づいたスピーキング指導
・「読むこと」「話すこと」の授業改善
・「即興力」の重視
- 和歌山県有田市立初島中学校
考えながら話す言語活動
・単元目標と学習到達目標との関連付け
- 静岡県裾野市立東中学校
小学校・高等学校との連携
・連携を生かした授業改善
・高等学校と連携した学習到達目標の設定
- 北海道弟子屈町立弟子屈中学校
年間指導計画における工夫
・「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を冒頭に配置
・各単元の目標と関連する学習到達目標の明示

「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関わる取組事例

- 島根県教育委員会
学習到達目標を県内全中学校で設定
→県版「ガイドブック」の作成・配付
指導主事による各学校への支援
- 青森県教育委員会
年間指導計画のフォーマットを提示
→各単元の目標と「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標との関連を明記するものに
- 沖縄県教育委員会
教育事務所レベルで「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための研修を実施
→年間指導計画の見直しからスタート
(各単元の目標を「能力」の面で1点に絞り込み)

中学校 新学習指導要領の趣旨に即した授業に取り組んだ学校の成果事例

秋田県大仙市立大曲中学校

I 学校・地域における教育活動

1. 言語活動における「即興力」の育成

- ・「話すこと」についてスモールステップを踏んだ指導
- ・メモに基づいたスピーキング指導
- ・二種類以上の技能を統合した指導
- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標に「即興力」を設定

2. 英語科教員のチームワークづくり

- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定
- ・方向目標の共有化



3. 地域全体での指導力・評価力の向上

- ・拠点校が方向性と実践事項を提案、協力校で焦点化された項目を共通実践

II 成果・効果

- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定により、授業計画が立てやすくなった。
- ・生徒と教員が目標を共有することで、生徒がより意欲的に学習に取り組むようになった。
- ・ドリル中心の活動が減り、生徒の発話量が増えた。
- ・拠点校・協力校制度により、拠点校と協力校で差を生じさせることなく、取り入れた手法の効果の波及が期待できる。

島根県教育委員会

I 島根県の中学校外国語教育の現状

- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標についての理解が不十分
- ・評価場面で、その単元でめざす力が適切に評価されていない。
- ・旧態依然とした授業が行われている学校が少なくない。
- ・小規模学校が多く、外国語科教員が1名の学校が多い。
- ・新たな研修を実施することが難しい。

II 学習目標設定に向けた学校への支援

- ・学習到達目標の作成を通じて、「4技能を総合的に指導すること」や「指導と評価の改善」につながることへの理解
- ・作成ガイドの作成、研修、6月末に県内全校作成完了(予定)

III 成果・効果

- 教員の意識変容
 - ・単元のねらいが明確になり、何を指導して、何を評価したら良いか明確になった。
 - ・単元計画が立てやすくなった。
 - ・年間を通して4技能をバランスよく指導し、評価できるようになった。
 - ・授業の言語活動が充実し、生徒が意欲的になった。
 - ・校内で作成し、英語教員同士で情報を共有したり改善したりする機会になった。 等

調査結果の概要

【聞くこと】

- 「応答問題」では、肯定的に決まった応答表現や、Where や Whoseを用いた疑問文に対する応答などにおいて、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 所有代名詞や否定文で応えること、文形式ではなく内容に応じて応える問題、申し出や依頼に対する応答などは、定着が十分ではないと考えられる。
- 「詳細理解問題」では、数字の聞き取りや聞いた英語を視覚的に絵と結び付けやすい問題については、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 前置詞の意味や後置修飾の意味のとらえ方、不定詞の理解、多くの情報を整理して理解することには課題があると考えられる。

【読むこと】

- 「詳細理解問題」では、文の意味内容が直接的に絵に結びつく問題は、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 第3学年では設定通過率を上回るまたは同程度と考えられる問題数の合計が半数未満であった。特に、前置詞の理解、連語の意味、いくつかの情報を整理して正確に内容を読みとることなどにおいて課題がある。
- 「概要・要点理解問題」では、書かれた情報を整理して、発話の意図をとらえる問題は、前回の同一問題の通過率を下回った。
- 「言語使用に関する知識理解問題」で、日常的な慣用表現は定着が見られる。

【書くこと】

- 「トピック指定問題」では、まとまった内容の文章を書くことが弱く、通過率が設定通過率を下回った。be動詞と一般動詞の併用や、代名詞の変化ができていない誤答が目立つとともに、無解答率が高い。
- 「条件指定問題」では、例文を参考にして紹介文を書く問題や英語のメモをもとに手紙を完成させる問題で、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 「文構造問題」では、where で始まる疑問文などの問題で、前回の同一問題の通過率を下回った。また、後置修飾、不定詞などの構造について課題がある。

特定の課題に関する調査(英語:「話すこと」)結果のポイント

「話すことに関する調査」を実施

- イラストを提示したり、音声を聞かせたりして、生徒の発話や応答を録音し、評価。
 - 英語学習に対する意識や学習習慣などに関する質問紙調査も実施。
- 全国的に教育課程の実現状況をみるための、「話すこと」に焦点を当てた調査は、初めての試み

【調査対象】

- 調査対象学年 中学校第3学年
- 調査実施期間 平成17年11月～12月
- 調査実施学校数及び生徒数 33校1,090人
- 調査内容

■「スピーキングテスト」

- 質問紙調査(生徒及び教師)



結果のポイント

- 日常生活に関わる基本的な単語の発話及び発音は良好
- 相手の話しかけ(質問)に対し、状況に即して適切に英語で応答する能力は、定型表現を用いた応答については身に付いている。
- 自分の考えや気持ちなどが聞き手に伝わるように話す力に課題

特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）

- 調査対象学年／中学校第3学年
- 調査実施日／平成22年11月8日～11月19日
- 調査実施学校数及び生徒数／101校（約3,300人）
全国の国公立中学校から無作為抽出

調査結果における主な課題と指導の改善事項

調査結果における主な課題



指導の改善事項

①文字、符号の使い方、語と語の区切り 問題 1…p. 8

- 呼びかけの文において、符号「,」と「?」が必要となる位置を判断し、適切な符号を用いることができなかった生徒の割合は約7割

- 普段の指導の中で、文意や読み手を意識して符号を活用させる機会を増やすなど

②語と語のつながり（文の構造） 問題 5…p. 12, 16

- 後置修飾（前置詞句の形容詞的用法）における語句整序の問題の通過率は約4割
- 疑問文や否定文をコミュニケーションの中で正しく使うことが十分身に付いていない

- 日本語との対比の中で語の配列の違いにふれながら書かせ、後置修飾を使って身の回りのものを表現させるなど
- 場面設定を明確にし、対話や文章のながれにふさわしい文形式や時制を考えさせるなど

①読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力 問題3…p. 23

● 読み取った内容に関して、書きたい内容を適切な語彙や文の構造が分からず書けなかった、と回答した生徒の割合は約3割

● 自分の意見・感想等を書くために必要となる語彙や文の構造等の知識を深めるとともに、読み取った文章中の表現を活用して書かせるなど

②資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力 問題6…p. 27

● 与えられた資料・状況のみを基に（日本語の指示なし）内容を考えて書けた生徒の割合は約3割
● 自分の意向を伝える内容が書くことができたが、正しく伝わるように表現することができなかった生徒の割合は約2割

● マッピングを取り入れ思考の活性化を図った上で、アイディアの取捨選択を行わせるなど
● ペアやグループでメモや手紙の交換を行い、書かれた内容がどのように伝わっているのかを確かめさせるなど

③まとまった内容の文章を書く力 問題4・7…p. 30, 34

問題4

● 誤答には、文構造等の誤りを含むものが多い

問題7

● まとまりのある内容の文章を書けた生徒のうち、文と文のつながりを工夫して展開して書くことができなかった生徒の割合は約7割

● 文構造等を繰り返し指導したり、まとめて取り扱ったりして、理解の体系化を図り、適切な表現を選択させるなど

● 文の羅列に対して、内容に一貫性をもたせるように配列を考えるとともに、代名詞やつなぎ言葉などを効果的に使って文章にさせるなど

◆ 第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定） （抜粋）

成果目標5（社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成）

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学者数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

※能力の例：国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

【成果指標】

＜グローバル人材関係＞

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される**英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%**

②英語教員に求められる英語力の目標（英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点程度以上）を達成した英語教員の割合（中学校：50%、高等学校：75%）

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

（H26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議） （抜粋）

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月14日閣議決定）において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、**生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。**これまでに設定されている英語力の目標だけでなく、**高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。**

生徒・教員の英語力及び指導状況について

■生徒の英語力について、目標としている英語力を達成している

生徒は公立中学3年生で約34.7%(約32%)、公立高校3年生で約31.9%(約31%)

○中学校卒業段階：初歩的な英語を聞いたり読んだりして話し手や書き手の意向などを理解したり、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話したり書いたりすることができる。(英検であれば3級程度以上)

○高等学校卒業段階：英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。(英検であれば準2級～2級程度以上)

■英語教員の英語力についても、目標を達成している教員は

公立中・高それぞれ約28.8%及び約55.4%。

○生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成するため、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とすることができる。(英検準1級以上、TOEFLのPBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上またはTOEIC730点以上)

■授業中、発話を半分以上英語で行っている英語教員は、公立中学校3年生担当で

約46.9%、公立高校3年生(コミュニケーション英語Ⅰ)担当で約48.1%。

■「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学校は、公立中・高それぞれ約

31.2%(17.4%)及び約58.3%(33.9%)。

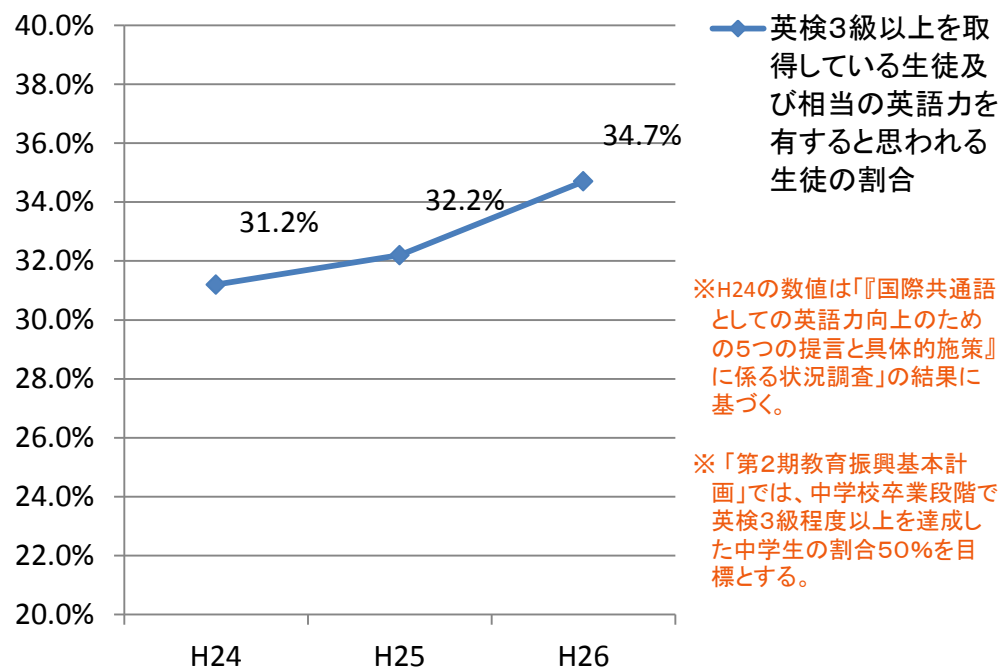
※「CAN-DOリスト」とは、英語を使って実際にどのようなことができるようになるのか、その能力を記述したものを指す。

<中学校>

中学生の英語力の状況

- 中学校第3学年に所属している生徒のうち、英検3級以上を取得している生徒は18.4%で、平成25年度の16.5%から1.9ポイント上昇している。
- 英検3級以上を取得してはいないが、相当の英語力を有すると思われる生徒は16.3%で、平成25年度の15.7%から0.6ポイント上昇している。
- 両者を合わせると34.7%となり、平成25年度の32.2%から2.5ポイント上昇している。

中学生の英語力の状況

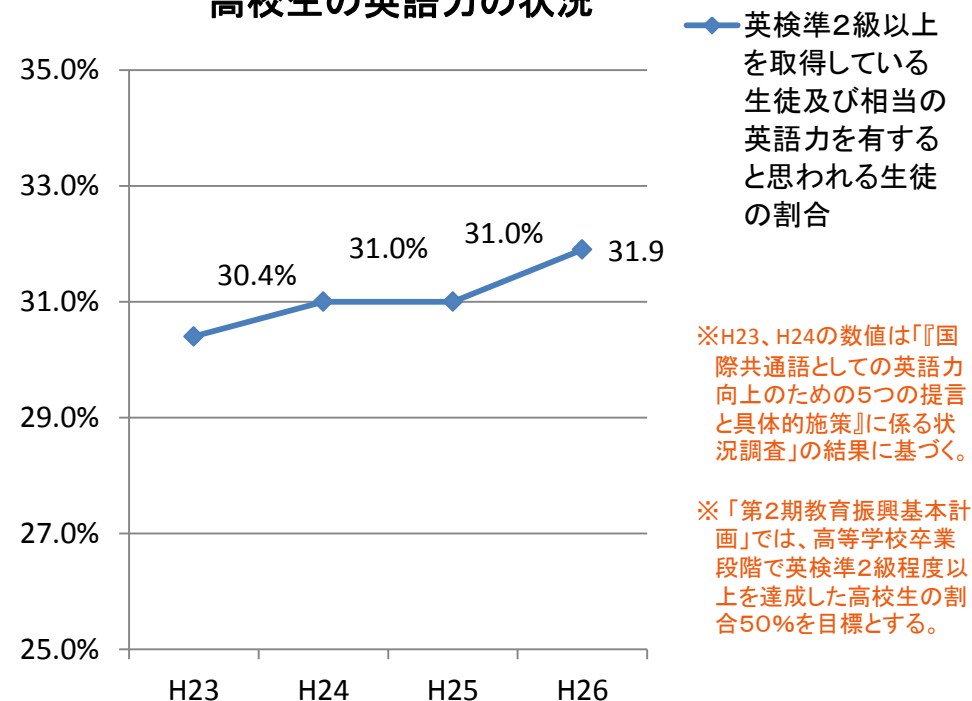


<高等学校>

高校生の英語力の状況

- 高等学校第3学年に所属している生徒のうち、英検準2級以上を取得している生徒は11.1%で、平成25年度の11.0%から0.1ポイント上昇している。
- 英検準2級以上を取得してはいないが、相当の英語力を有すると思われる生徒は20.8%で、平成25年度の20.0%から0.8ポイント上昇している。
- 両者を合わせると31.9%となり、平成25年度の31.0%から0.9ポイント上昇している。

高校生の英語力の状況



平成26年度中学3年生の英語力について（アンケート調査より）

英検3級程度（CEFR：A1レベル上位）の生徒が約3割

英検3級程度以上（CEFR：A1レベル上位）の公立中学校3年の生徒数について教育委員会を通じてアンケートを実施

23年度	24年度	25年度	26年度
30%	31%	31%	35%

【中学校及び中等教育学校（前期課程）】

	中学校第3学年に所属している生徒数…(a)	(a)の内、英検を受験したことがある生徒数…(b)	(b)の内、英検3級以上を取得している生徒数…(c)	(a)の内、英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数 [(c)以外]…(d)	(c)と(d)の計
生徒数及び割合	1,078,270人 (1,093,466人)	356,841人 (346,949人)	198,182人 (180,637人)	175,417人 (171,414人)	373,599人 (352,051人)
	((a)に占める割合)→	33.1% (31.7%)	18.4% (16.5%)	16.3% (15.7%)	34.6% (32.2%)

注)「英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数」とは、英検3級以上は取得していないが、相当の英語力を有していると英語担当教員が判断する生徒の人数を指す。

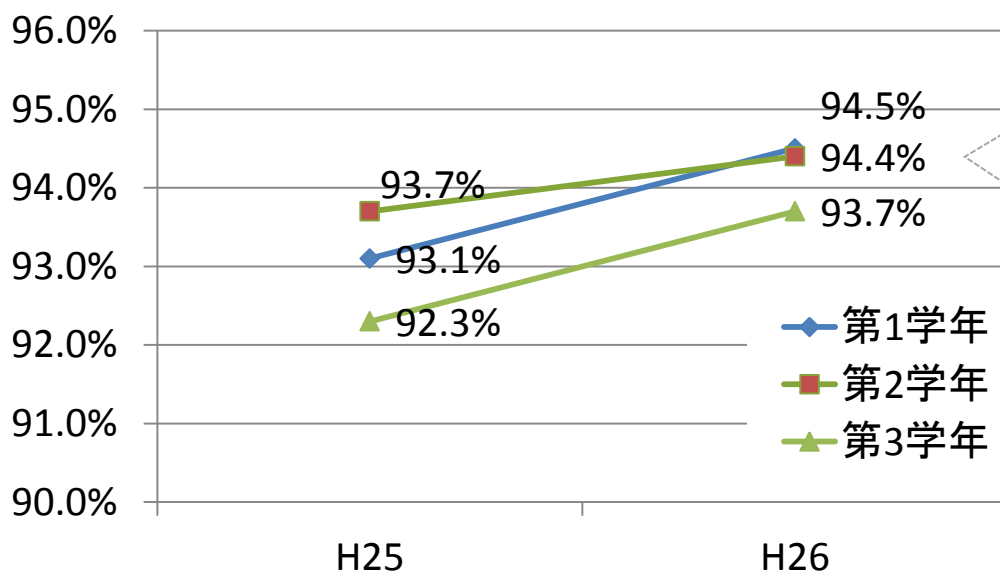
出典：「英語教育実施状況調査」（H26年）

英語 中学校におけるパフォーマンス等の評価の現状

- 「話すこと」や「書くこと」の能力を評価するスピーキングテストやライティングテスト等を実施している学校は、第1学年では94.5%で、平成25年度の93.1%から1.4ポイント上昇、第2学年では94.4%で、平成25年度の93.7%から0.7ポイント上昇、第3学年では93.7%で、平成25年度の92.3%から1.4ポイント上昇している。

パフォーマンステストの状況

スピーキングテストやライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況



具体的な実施内容	
スピーキングテスト	スピーチ
	インタビュー(面接)
	プレゼンテーション
	ディスカッション
	ディベート
ライティングテスト(エッセイ等)	

小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について(中学1年生対象調査結果より)

出典: 小学校外国語活動実施状況調査(H26) 小学校5, 6年児童約2万人、中学校1・2学生徒約2万人、小学校管理職・学級担任、中学校管理職・外国語科担当教員それぞれ約3千人を対象に調査

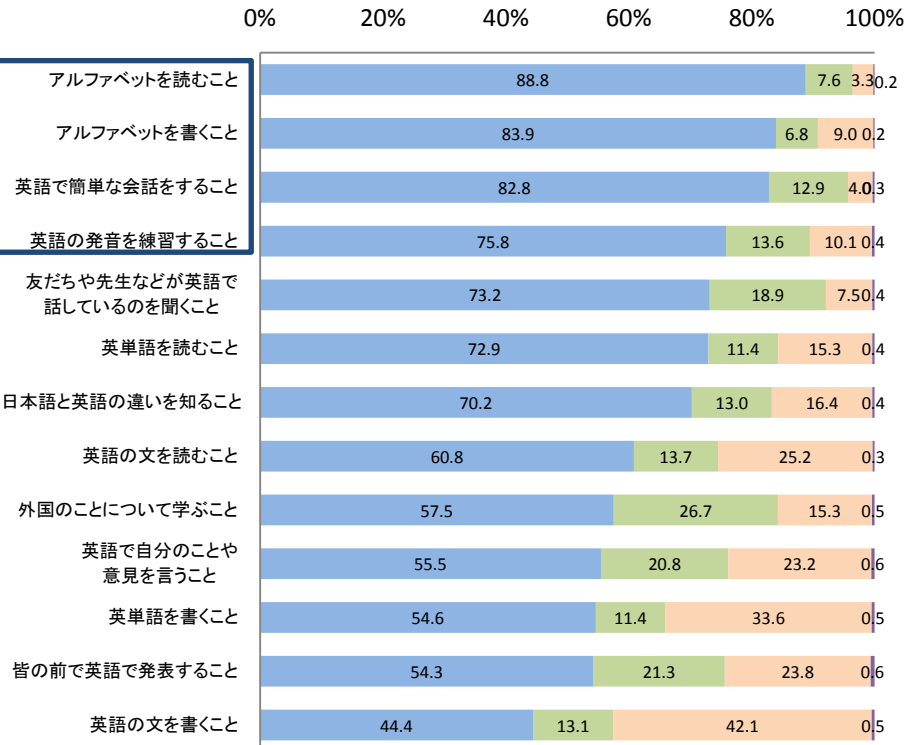
小学校外国語活動が中学校でどのように役立ったか(中1)

- 「小学校の外国語活動で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったこと」として、
生徒の88.8%が「アルファベットを読むこと」(86.8%)、
83.9%が「アルファベットを書くこと」(80.7%)、
82.8%が「英語で簡単な会話をする事」(80.5%)、
75.8%が「英語の発音を練習すること」(73.7%)、
と回答。

()内は、24年度調査結果

Q. 小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。(単数回答)

■役に立った ■役に立たなかった ■小学校でやっていないと思う ■無回答



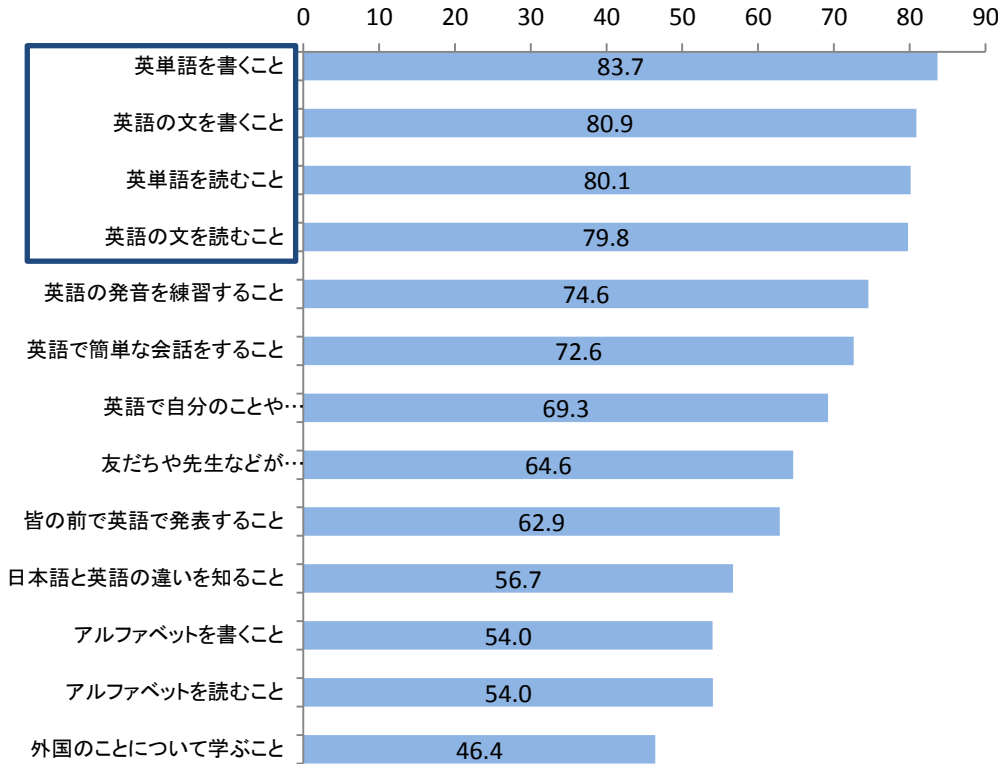
小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと(中1)

- 「小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと」として、
生徒の83.7%が「英単語を書くこと」(81.7%)、
80.9%が「英語の文を書くこと」(78.6%)、
80.1%が「英単語を読むこと」(77.9%)、
79.8%が「英語の文を読むこと」(77.6%)、
と回答。

()内は、24年度調査結果

Q. 以下の項目は、小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったと思いますか。

※「そう思う」「そう思わない」「無回答」のうち、「そう思う」と回答した割合



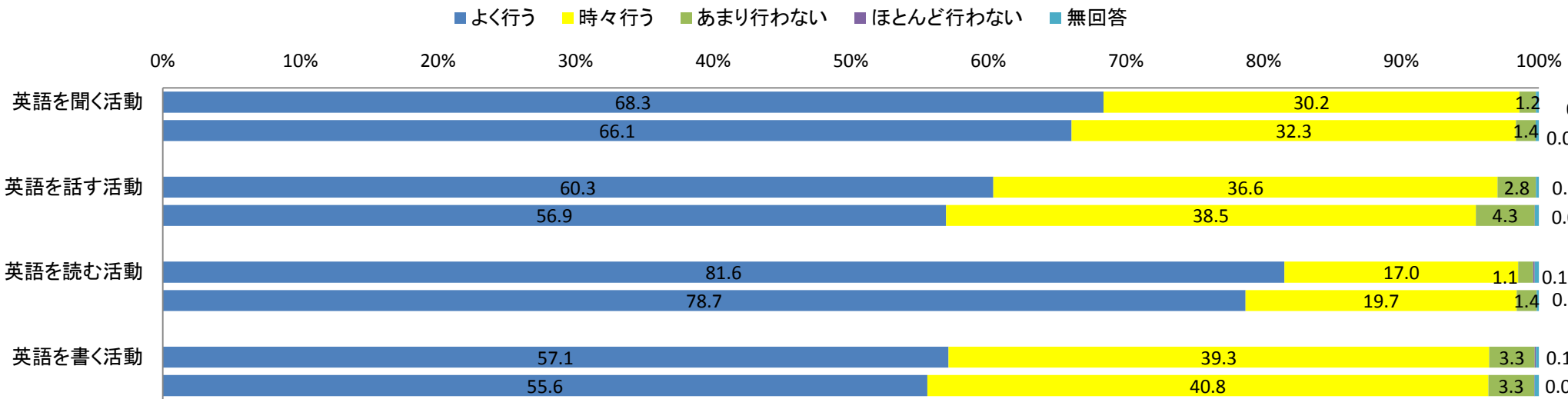
中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

授業における言語活動の指導①

○ 「聞く活動」66.1%（68.3%）、「読む」78.7%（81.6%）に比べ、「書く活動」55.6%（57.1%）、「話す活動」56.9%（60.3%）の割合がやや低くなっている。

（ ）内は、前回調査結果

Q. あなたの英語の授業において、1つの単元の中でそれぞれの活動をどの程度行っていますか。（単数回答）

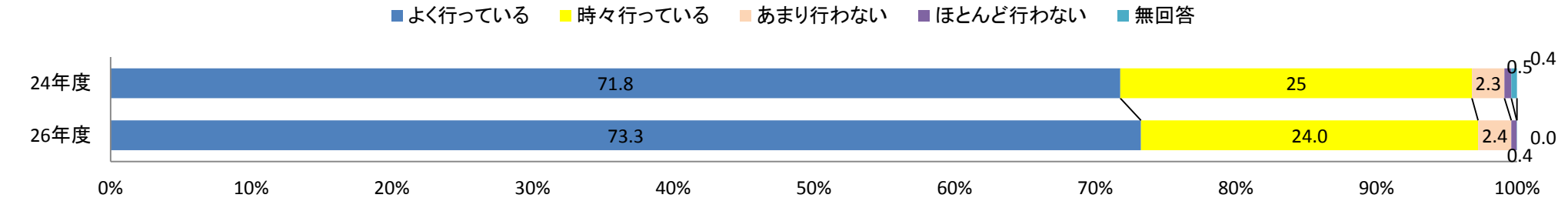


上段：H24年度調査 下段：H26年度調査

ペアワーク・グループワークの実施状況

○ 97.3%（96.8%）の教員がペアワークやグループワーク「よく行っている、時々行っている」と回答。

Q. あなたの英語の授業において、生徒にペアワークやグループワークをどの程度させていますか。（単数回答）

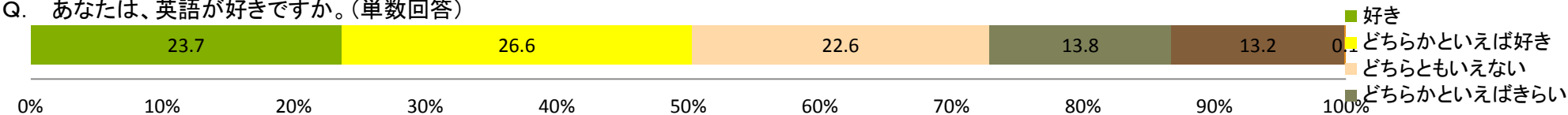


(3-1) 中学校2年生の外国語科に対する意識

英語に対する意識 (中2)

○ 生徒の50.3%が「英語が好き、どちらかといえば好き」と回答。

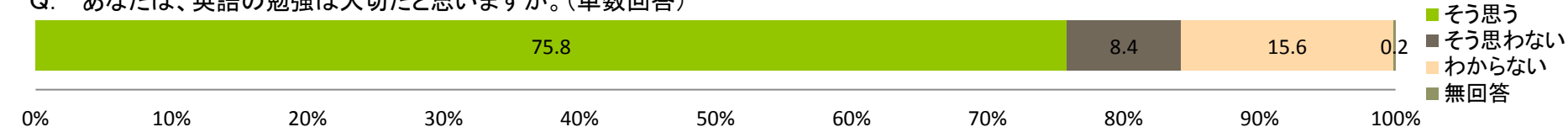
Q. あなたは、英語が好きですか。(単数回答)



英語の勉強に対する意識 (中2)

○ 生徒の75.8%が「英語の勉強は大切だと思う」と回答。

Q. あなたは、英語の勉強は大切だと思いますか。(単数回答)

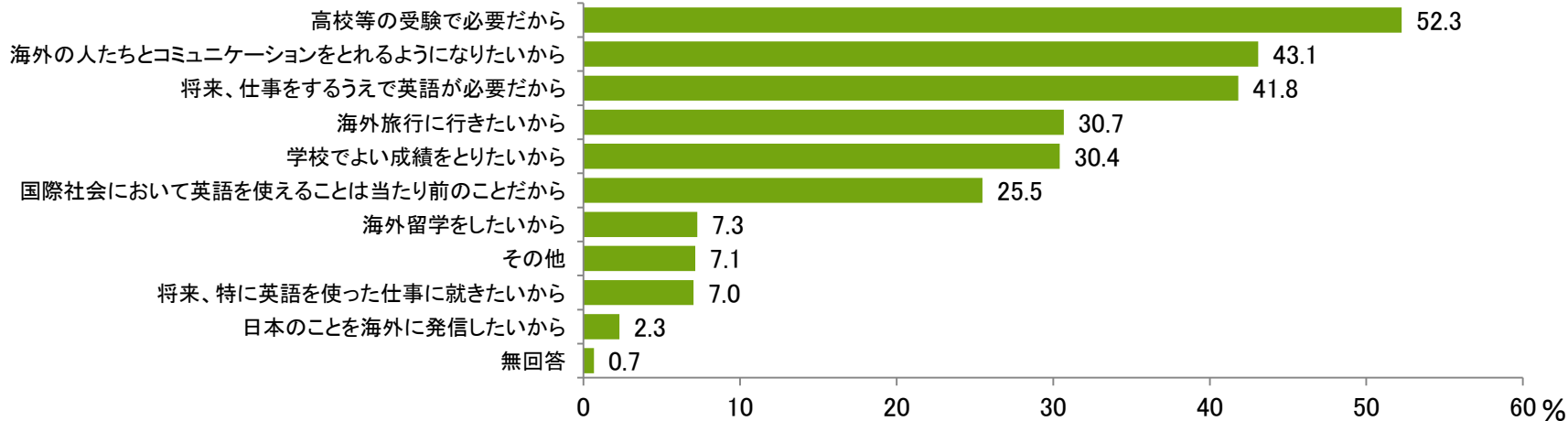


将来の英語使用に対する意識① (中2)

○ 英語の勉強が大切だと思う理由として、生徒の

- ・ 52.3%が「高校等の受験で必要だから」
- ・ 43.1%が「海外の人たちとコミュニケーションをとれるようになりたいから」
- ・ 41.8%が「将来、仕事をするうえで英語が必要だから」と回答。

Q. 英語の勉強が大切だと思うのはなぜですか。(3つまで複数選択可)

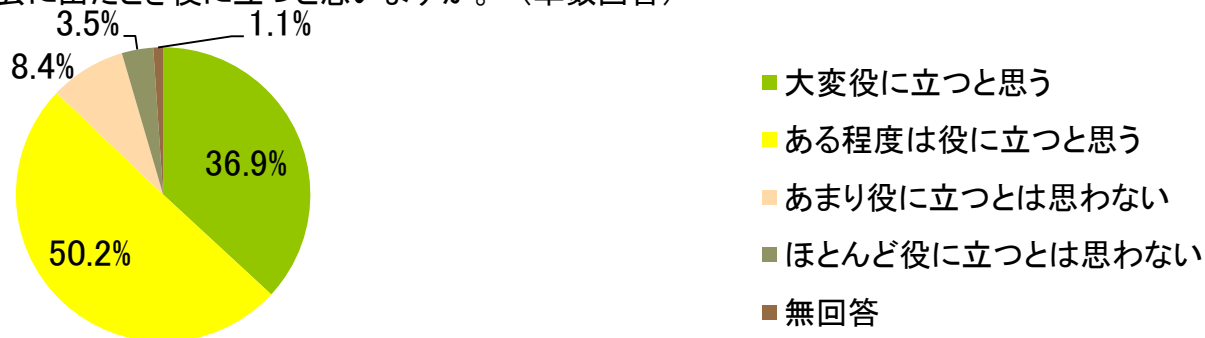


(3-1) 中学校2年生の外国語科に対する意識

将来の英語使用に対する意識② (中2)

- 生徒の87.1%が、授業で学習したことは将来社会に出たときに「大変役に立つと思う、ある程度は役に立つと思う」と回答。

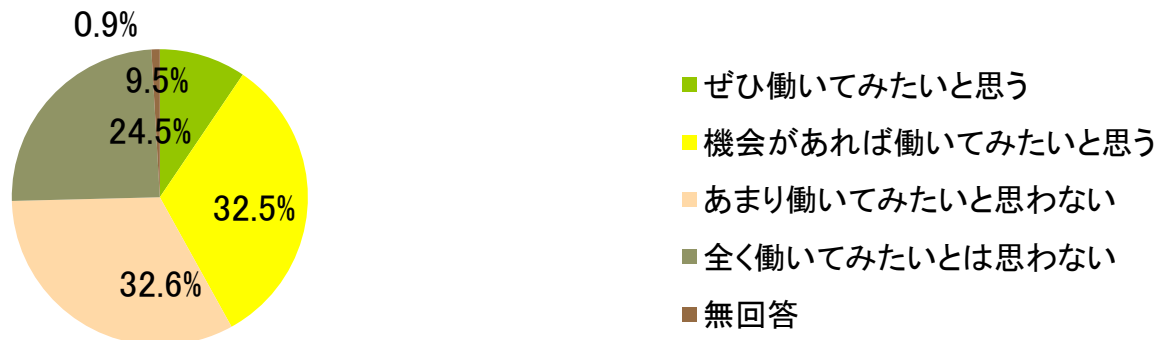
Q. 授業で学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか。(単数回答)



将来の英語使用に対する意識③ (中2)

- 生徒の42.0%が将来英語を使って「ぜひ働いてみたい、機会があれば働いてみたいと思う」と回答。
 ○ 一方、「あまり働いてみたいとは思わない、全く働いてみたいとは思わない」と回答した生徒の割合は57.1%。

Q. 将来、英語を使って海外で働いてみたいと思いますか。(単数回答)



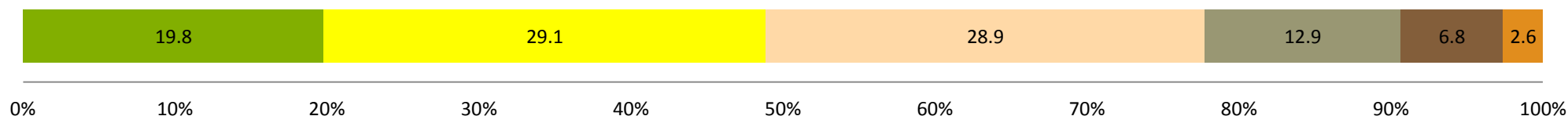
(3-1) 中学校2年生の外国語科に対する意識

授業の理解についての状況①（中2）

- 生徒の
- ・48.9%が「英語の授業内容を理解している、どちらかといえば理解している」
 - ・28.9%が「半分くらい理解している」
 - ・19.7%が「授業内容を理解していない、どちらかといえば理解していない」と回答。

Q. 英語の授業の内容を理解していると思いますか。（単数回答）

■ 理解している ■ どちらかといえば理解している ■ 半分くらい理解している ■ どちらかといえば理解していない ■ 理解していない ■ 無回答

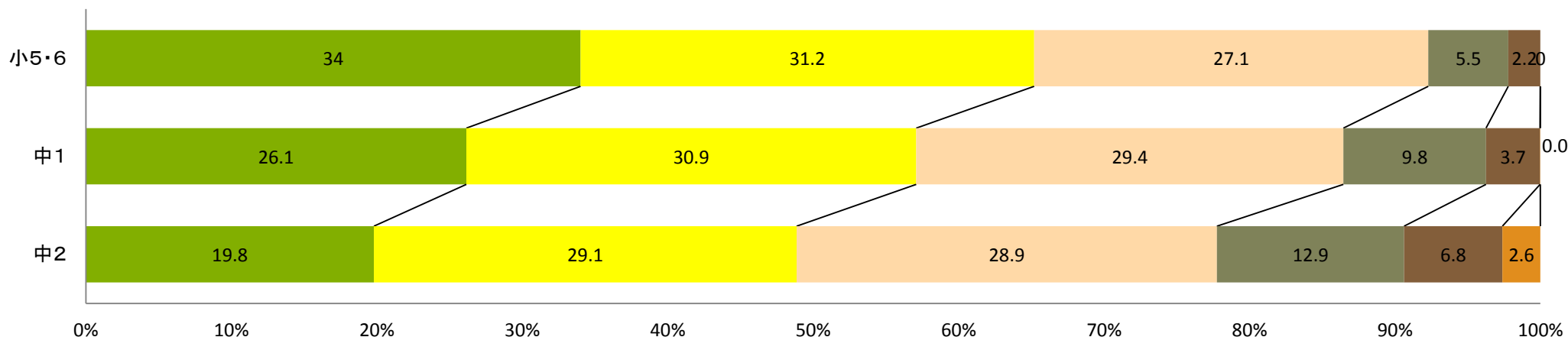


授業の理解についての状況②（小5・6、中1、中2）

- 「英語の授業を理解していると思うか」という問いに対し、小学生5, 6年生の65.2%、中学1年生の57.0%、中学2年生の48.9%が「理解している、どちらかといえば理解している」と回答。

Q. 英語の授業の内容を理解していると思いますか。（再掲）

■ 理解している ■ どちらかといえば理解している ■ 半分くらい理解している ■ どちらかといえば理解していない ■ 理解していない ■ 無回答



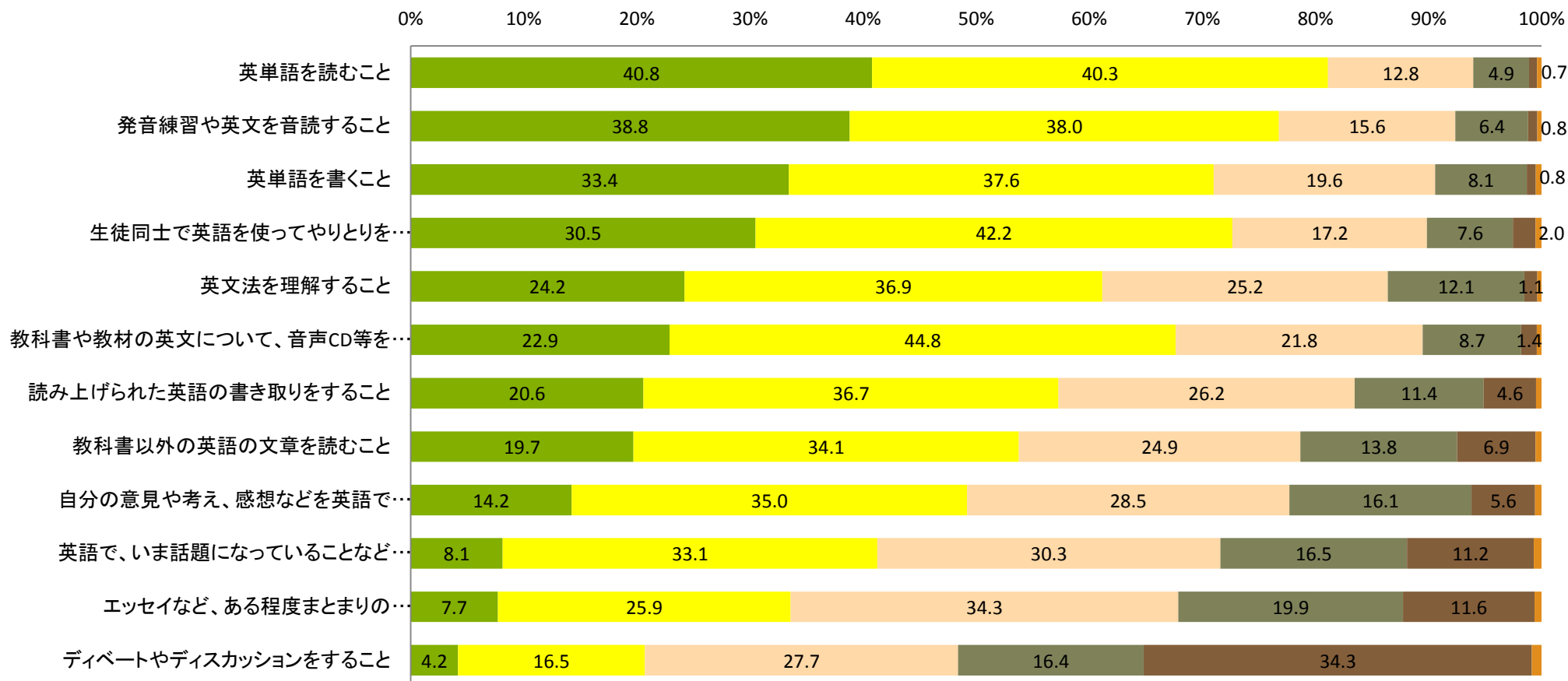
（3－1）中学校2年生の外国語科に対する意識

英語の授業での取組状況（中2）

- 授業でどの程度できていると思うかについて、生徒の
- ・ 81.1%が「英単語を読むことがほぼできている、どちらかといえばできている」
 - ・ 76.8%が「発音練習や英文を音読することがほぼできている、どちらかといえばできている」
 - ・ 33.6%が「エッセイなど、ある程度まとまりのある文章を書くことがほぼできている、どちらかといえばできている」
 - ・ 20.7%が「ディベートやディスカッションをすることがほぼできている、どちらかといえ
- ばできている」と回答。

Q. 英語の授業の中で、次の項目についてどの程度できていると思いますか。（単数回答）

■ ほぼできている ■ どちらかといえばできている ■ どちらかといえばできていない ■ ほとんどできていない ■ 授業でやったことがないと思う ■ 無回答

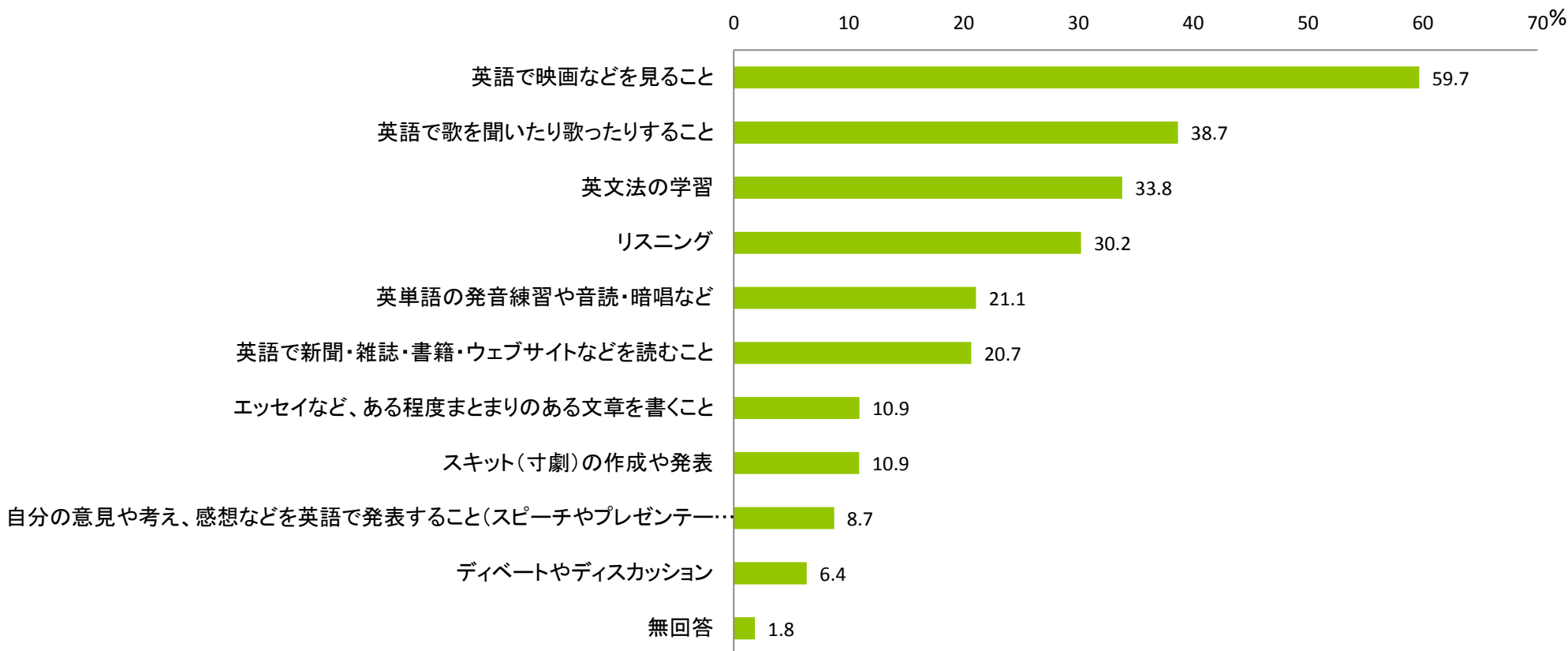


(4-1) 中学校2年生の外国語科に対する意識

英語の授業でもっとしてみたいこと(中2)

- 英語の授業の中で、生徒の
 - ・ 59.7%が「英語で映画などを見ること」
 - ・ 38.7%が「英語で歌を聴いたり歌ったりすること」
 - ・ 33.8%が「英文法の学習」
 - ・ 30.2%が「リスニング」をもっとしてみたいと回答。
- 生徒の8.7%が「自分の意見や考え、感想などを英語で発表すること(スピーチやプレゼンテーション)」と回答。6.4%が「ディベートやディスカッション」について、「もっとしてみたい」と回答。

Q. 英語の授業の中で、どのようなことをもっとしてみたいと思いますか。(3つまで複数回答可)

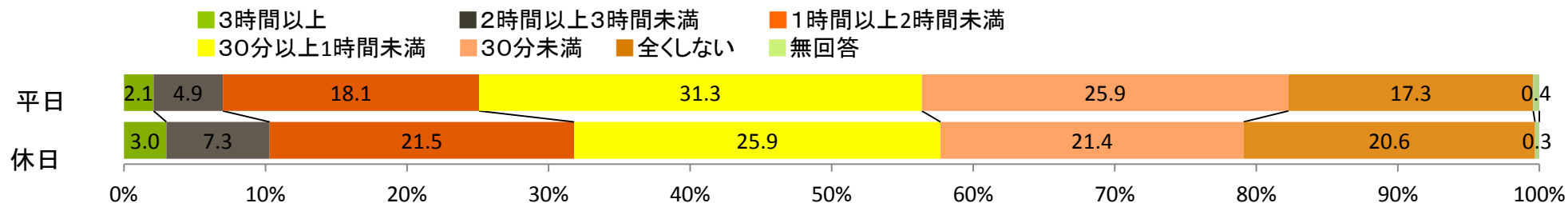


(3-1) 中学校2年生の外国語科に対する意識

予習・復習の状況(中2)

- 生徒が平日、1日あたり予習復習を行う時間の平均の割合は、「30分以上1時間未満」が31.3%と割合が高い。

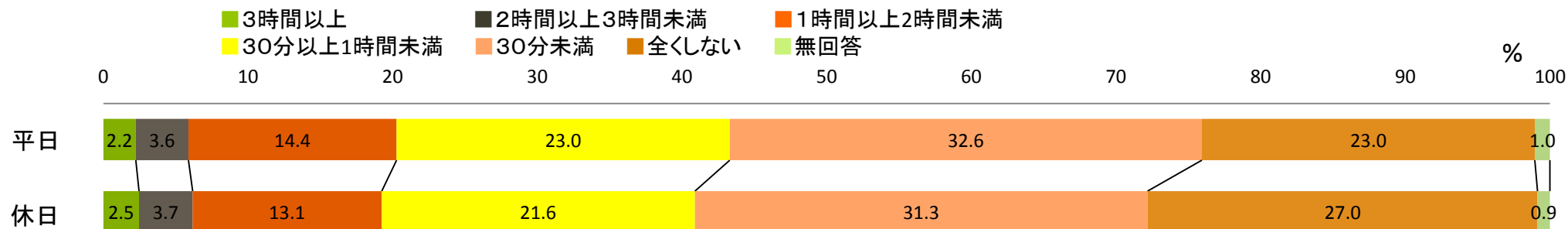
Q. 学校の授業の予習・復習を1日あたりどのくらい行っていますか。(単数回答)



英語に触れる状況(中2)

- 学校の授業の予習・復習以外に英語に触れている生徒の割合は平日で75.8%、休日で72.2%。

Q. 学校の授業の予習・復習以外に1日あたりどのくらい英語に触れていますか。(単数回答)

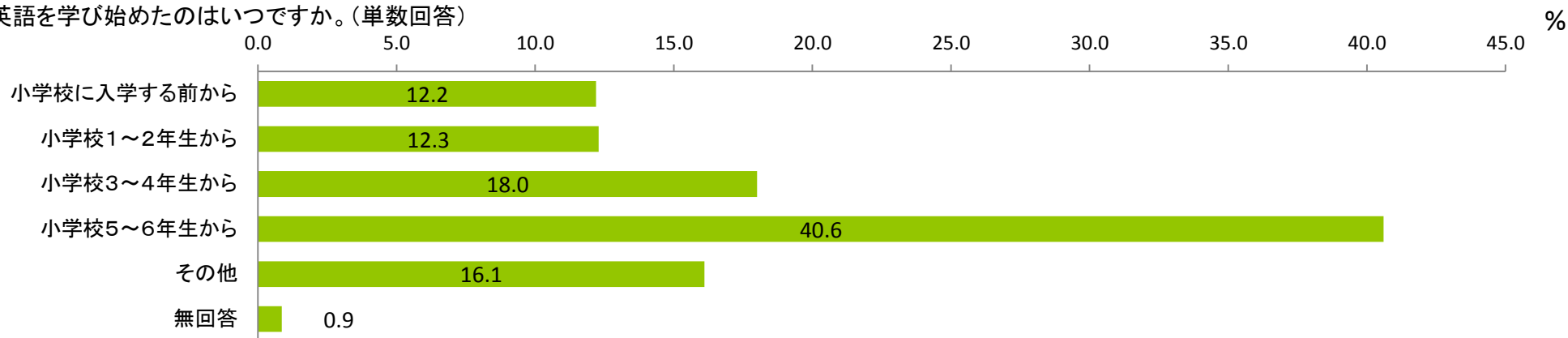


（3－2）中学校2年生の英語に対する取組状況

英語を学び始めた時期（中2）

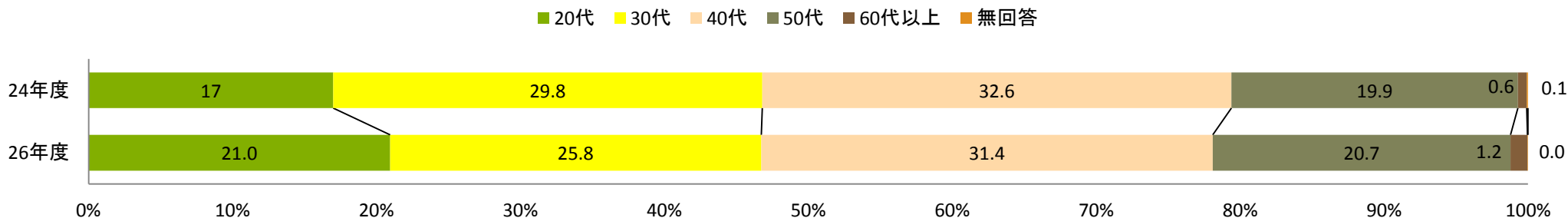
- 英語を学び始めた時期について、生徒の
- ・ 12.2%が「小学校に入学する前から」
 - ・ 12.3%が「小学校1～2年生から」
 - ・ 18.0%が「小学校3～4年生から」
 - ・ 40.6%が「小学校5～6年生から」と回答。

Q. 英語を学び始めたのはいつですか。（単数回答）

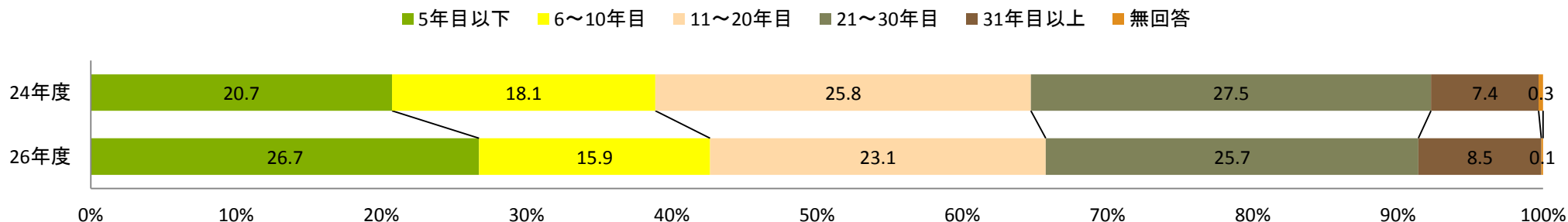


(7-1) 中学校外国語科担当教員の状況

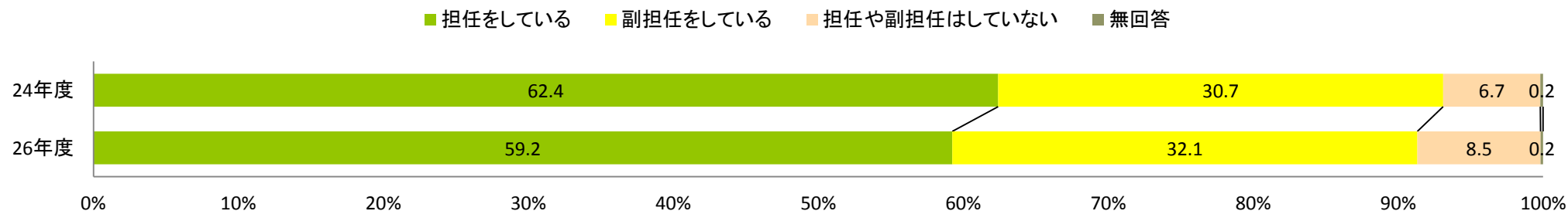
教員の年齢別割合



教職経験年数



担任、副担任の受け持ち状況

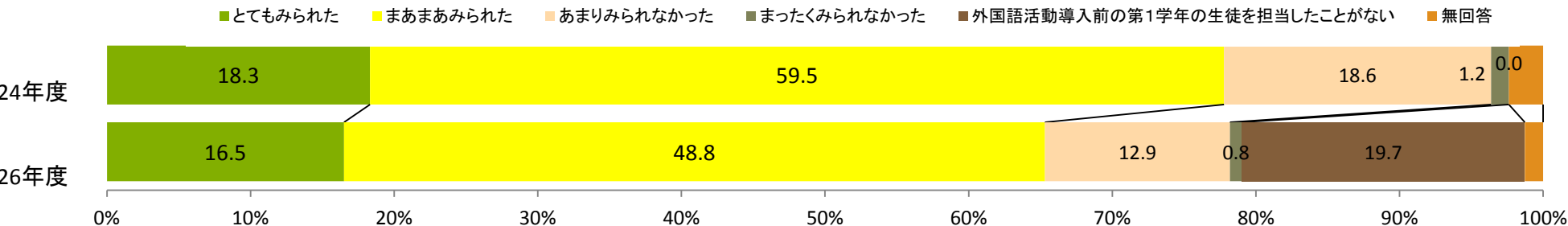


(7-2) 外国語科担当教員の中学1年生に対する意識

外国語活動を経験した中学1年の生徒の変容①

- 教員の65.3% (77.8%) が「外国語活動導入前の1年生と比べて変容がとてもみられた、まあみられた」と回答。
()内は、前回調査結果

Q. 小学校において外国語活動を経験して入学した第1学年の生徒は、外国語活動導入前の第1学年の生徒と比較して、英語の授業において成果や変容がみられましたか。(単数回答)



(7-2) 外国語科担当教員の中学1年生に対する意識

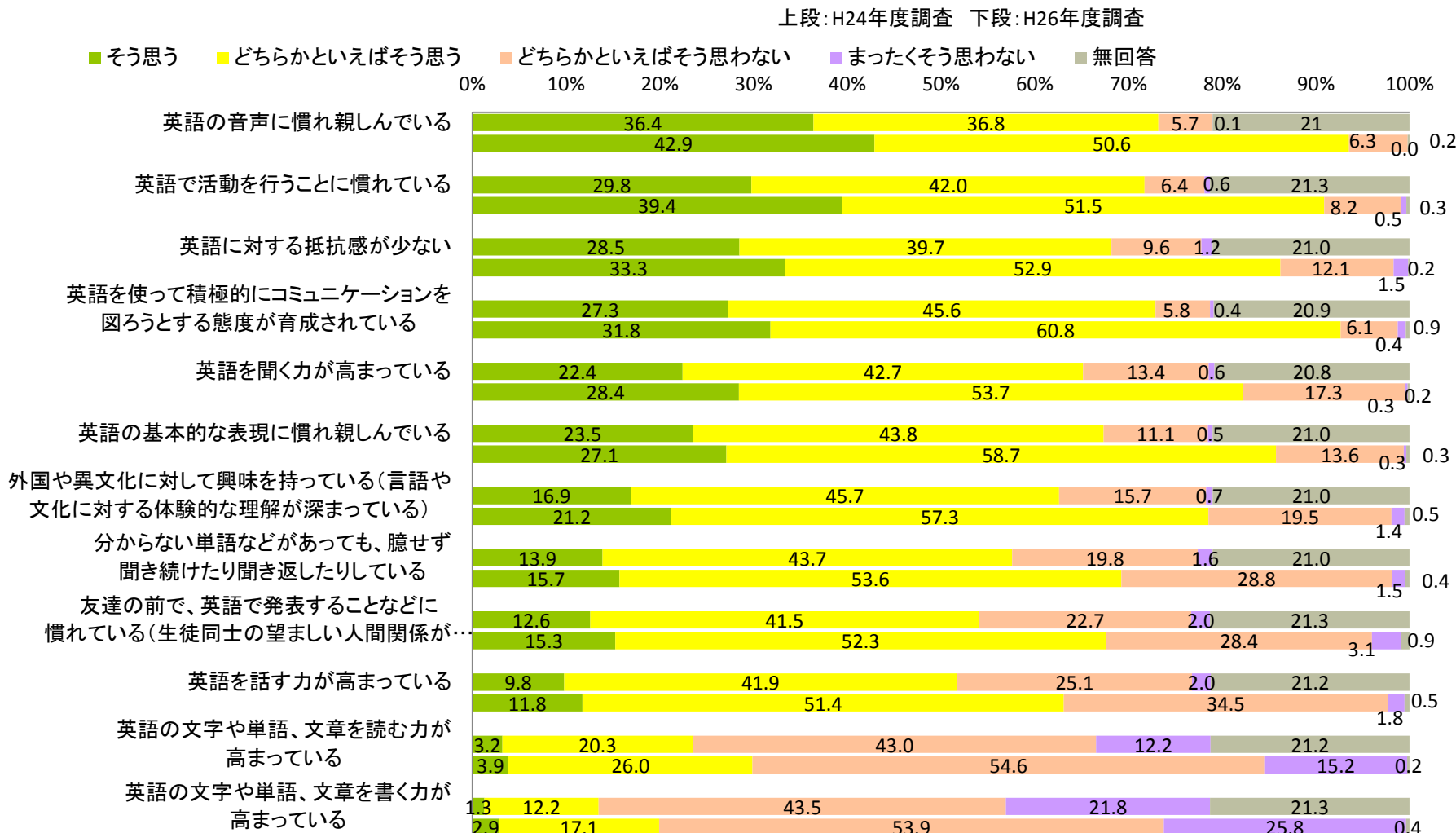
外国語活動を経験した中学1年の生徒の変容②

- 小学校で外国語活動を経験したことにより、「英語の音声に慣れ親しんでいる」93.5% (73.2%)、「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている」92.6% (72.9%) などの成果や変容が見られる。

※上記の%数値は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

()内は、前回調査結果

Q. 具体的にどのような成果や変容がみられましたか。(単数回答)



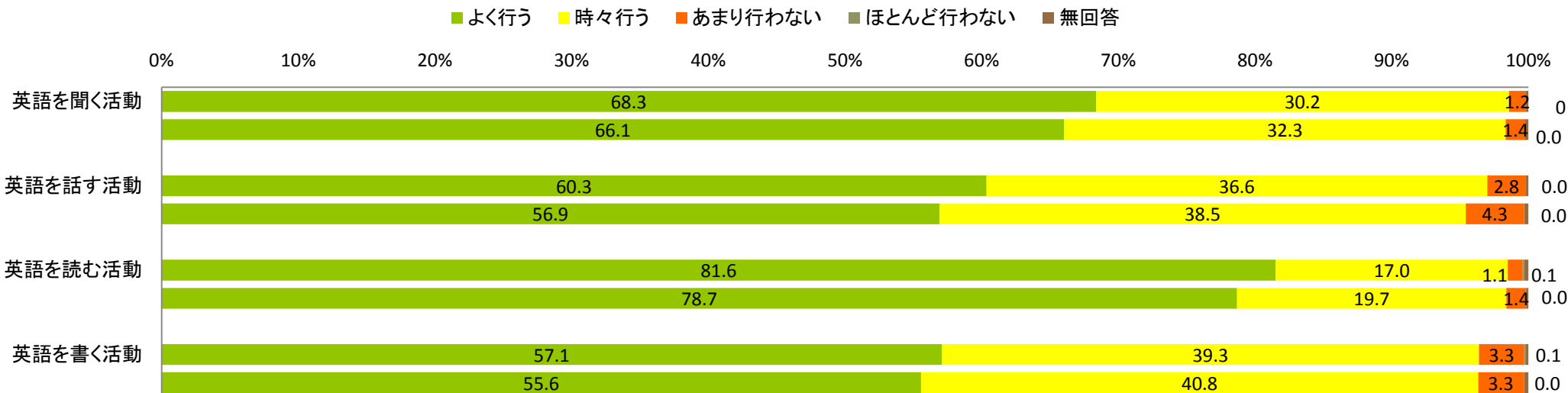
(7-3) 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

授業における言語活動の指導①

- 「聞く活動」66.1%（68.3%）、「読む」78.7%（81.6%）に比べ、「書く活動」55.6%（57.1%）、「話す活動」56.9%（60.3%）の割合がやや低くなっている。

（ ）内は、前回調査結果

Q. あなたの英語の授業において、1つの単元の中でそれぞれの活動をどの程度行っていますか。（単数回答）



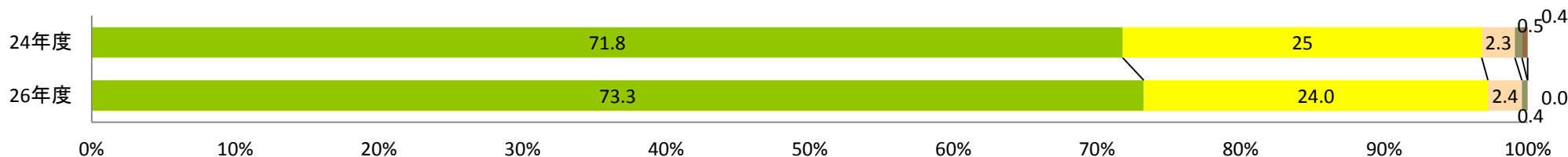
上段：H24年度調査 下段：H26年度調査

ペアワーク・グループワークの実施状況

- 97.3%（96.8%）の教員がペアワークやグループワーク「よく行っている、時々行っている」と回答。

Q. あなたの英語の授業において、生徒にペアワークやグループワークをどの程度させていますか。（単数回答）

■ よく行っている ■ 時々行っている ■ あまり行わない ■ ほとんど行わない ■ 無回答

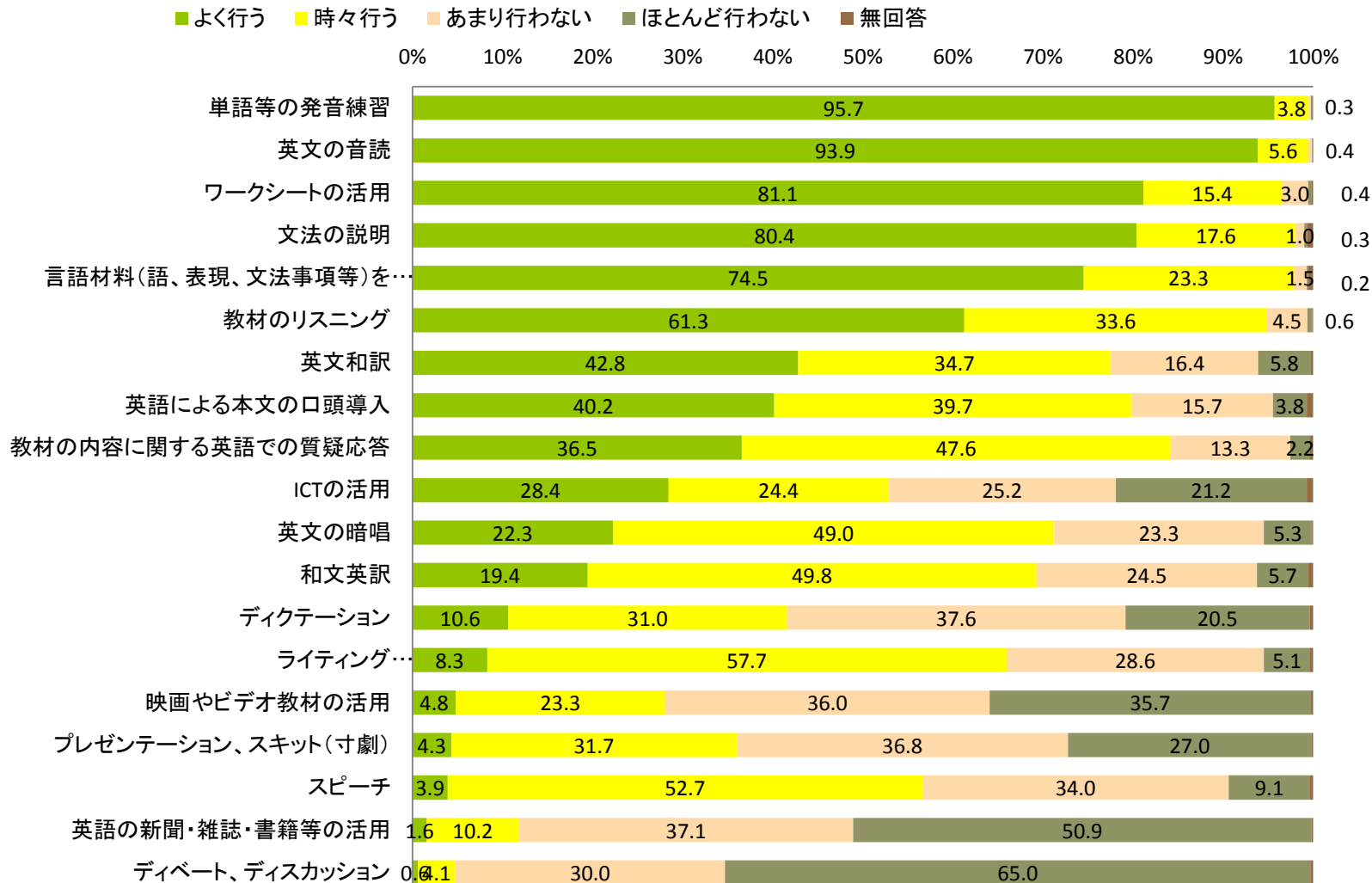


(7-3) 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

授業における言語活動の指導②

- 「文法の説明」98%や「言語材料を活用できるようにするための練習」97.8%に比べ、それをさらに活用して行う「スピーチ」56.6%、「プレゼンテーションやスキット（寸劇）」36.0%、「ディベート、ディスカッション」34.7%の割合は低い。
※上記の%数値は「よく行う」「時々行う」の合計

Q. あなたの英語の授業において、次のようなことをどのくらい行いますか。（単数回答）

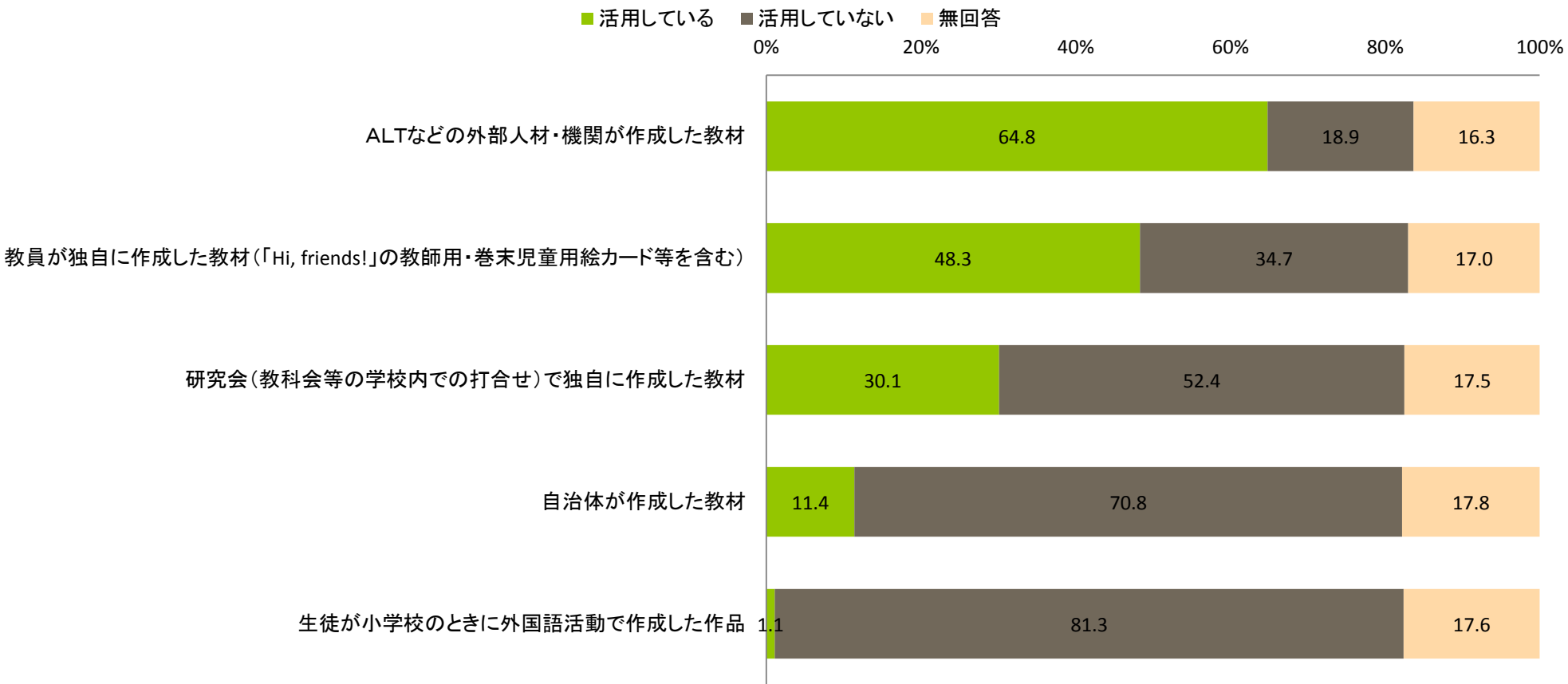


(7-3) 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

活用している教材の状況

- 英語の授業で活用している教材について、教員の
 - ・ 64.8%が「ALTなどの外部人材・機関が作成した教材」
 - ・ 48.3%が「教員が独自に作成した教材（「Hi, friends!」の教師用・巻末児童用絵カード等を含む）」
 - ・ 30.1%が「研究会（教科会等の学校内での打合せ）で独自に作成した教材」を活用していると回答。

Q. 外国語活動を踏まえ、あなたが英語の授業で活用している教材について、それぞれあてはまるものを選択してください。（単数回答）



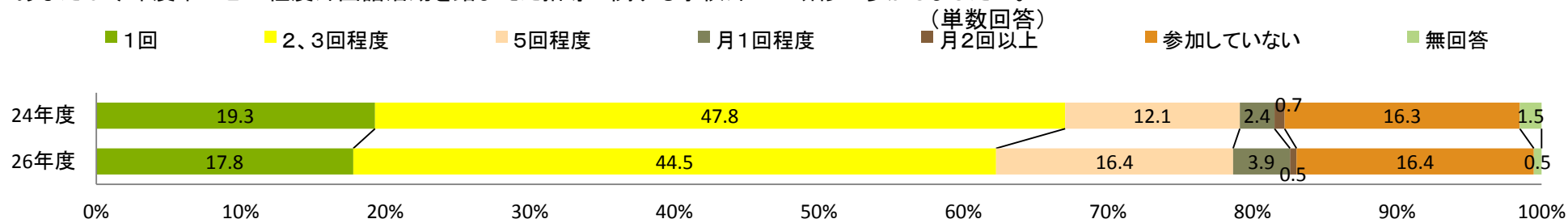
(7-4) 外国語科担当教員の研修等に対する意識

学校外での研修

- 教員の83.1% (82.3%) が学校外での研修に参加している。
- 参加回数について、44.5% (47.8%) は年度内に2、3回程度と回答。

()内は、前回調査結果

Q. あなたは今年度中にどの程度外国語活動を踏まえた指導に関する学校外での研修に参加しましたか。



必要だと感じる研修

- 教員の77.6% (25.5%) が「外国語活動における具体的なコミュニケーション活動や指導の仕方に関する研修」が必要と回答。

()内は、前回調査結果

Q. あなたが必要だと感じる研修について、あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)

